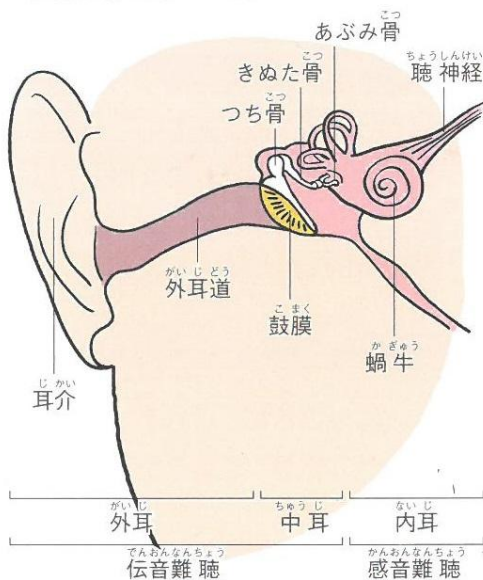


☆「耳」や「きこえ」のおはなし☆

私達は「話をよく聞く。」ことを大事にしていますが、話し声や音がどのように耳に入って聞こえるのか、以下の文章や図を見て学習してみましょう。

「きこえのしくみをしよう」

▼聴覚器官と音のつたわりかた



音がきこえるしくみを理解しましょう。

わたしたちが耳といっている、外からみえている部分は耳介といえます。音はこの耳介から入ってきて耳のあな（外耳道という）をとおり、鼓膜にぶつかります。鼓膜は直径1cm、厚さ0.1mmくらいの膜です。耳介と外耳道の部分を外耳と言います。

音というのは、じつは空気の振動です。鼓膜をふるわせた振動はつぎに、その奥の中耳へと伝わります。中耳には

つち骨、きぬた骨、あぶみ骨という3つの小さな骨（まとめて耳小骨）があります。耳小骨は、音がよくきこえるように、振動を大きくするはたらきがあります。中耳は大豆くらいの大きさです。

振動はさらに奥の内耳へと伝わります。内耳は音を感じる場所で、かたつむりのような形をした蝸牛があります。蝸牛の大きさは小指の先くらいで、中にはリンパ液が入っています。振動はここで液体のゆれとなり、さらに電気信号となって聴神経に伝わります。聴神経から脳に信号が届くと、音がきこえたと感じるのです。

※引用・参考にした資料

『発達と障害を考える本⑨ふしぎだね!?聴覚障害のおともだち』ミネルヴァ書房

言葉の世界を広げよう「春に関する言葉」

少しずつ日が長くなり、日差しが暖かく感じられるようになってきました。今回の「言葉の世界を広げよう」では、春に使う言葉を集めました。名詞、形容詞、副詞、動詞を取り上げましたので、これらの言葉を使って、文を書いてみましょう。

みなさんは言葉をいくつ知っていますか？知っている言葉をチェックしてみましょう。

番号	言葉	チェック	番号	言葉	チェック
名詞			39	新緑	
1	卯月		40	風薫る季節	
2	清明（2016年は4月4日）		41	若葉	
3	穀雨（2016年は4月20日）		42	青葉	
4	昭和の日（4月29日）		43	五月晴れ	
5	花曇		44	ツバメ	
6	花冷え		45	ヒバリ	
7	蜃気楼		46	そらまめ	
8	黄砂		47	藤	
9	ソメイヨシノ		48	撫子	
10	チューリップ		49	母の日	
11	パンジー		50	カーネーション	
12	菜の花		51	運動会	
13	菫		52	応援	
14	ぜんまい		53	徒競走	
15	ネーブル		54	自己ベスト	
16	イチゴ		55	審判	
17	モンシロチョウ		形容詞		
18	ミツバチ		1	うすら寒い	
19	新任式		2	可愛らしい	
20	入学式		3	快い	
21	進級		4	（新緑が）まぶしい	
22	新入生		5	礼儀正しい	
23	花見		6	粘り強い	
24	御輿担ぎ		7	神々しい	
25	皐月		副詞		
26	八十八夜		1	ちらほら（と花が咲く）	
27	憲法記念日（5月3日）		2	（虫が）うようよ（いる）	
28	みどりの日（5月4日）		3	きびきび（と歩く）	
29	こどもの日（5月5日）		4	にんまり（と笑う）	
30	端午の節句		動詞		
31	粽		1	（春一番が）吹く。	
32	柏餅		2	（新入生を）迎える。	
33	鯉幟		3	（イチゴを）もぐ。	
34	兜		4	（こいのぼりが空を）泳ぐ。	
35	ゴールデンウィーク		5	（桜が）開花する。	
36	立夏		6	（小鳥が）さえずる。	
37	初夏		7	（草木が）芽吹く。	
38	小満		8	（校旗を）掲揚する。	

じょうほうほしょう 「情報保障」について学ぼう！

みなさんは、「情報保障」という言葉を知っていますか。幼稚園から小学部のみなさんは、初めて聞く言葉かもしれませんね。このプリントを使って、先生や家族と一緒に学習してみましょう。中学部・高等部のみなさんは聞いたことがあると思いますが、どういうことか自分の言葉で説明できますか。このプリントを使って確認するとともに、自分に合った情報保障についても考えてみましょう。

1 「情報保障」の意味

聴覚障がい者の状況に対して、ノートテイクや手話通訳などの手段を用い、授業を聞く権利、授業に参加する権利を保障する取り組みのことを「情報保障」と言います。

補足説明／大学や専門学校だけではなく、職場でも会議や打ち合せの時でも同じような方法で行われることもあります。

※引用・参考にした資料

日本聴覚障害学生支援ネットワークのホームページより

2 「情報保障」についてのクイズ

さて、中学部・高等部のみなさんに問題です。

情報保障は、どんな種類があるか知っていますか。覚えている種類を書いてみましょう。

3 「情報保障」の種類

①手話通訳／講演会やスポーツ大会など大規模なイベントでよく使われます。様々な場面で、話や音による情報を手話によって通訳する方法です。

②筆 談／少人数のときに使われます。手書きだけではなく、スマートフォンを使って内容を要約して表示する方法もあります。

③ノートテイク（要約筆記） 会社や大学などで多く用いられている情報保障手段で、授業中の情報を手書きによって書き取り、伝えていく方法です。学生が授業中に書くノートとは異なり、先生の話し言葉をできるだけ忠実に、書き起こしていく方法です。	
④パソコンノートテイク（パソコン要約筆記） 聞こえてくる文章のうち、前半を入力者A、後半を入力者Bが打ち込むなど、複数の人が協力して文章を完成させていく方法です。	
⑤情報保障向けの音声認識 最近、話題になっている新たな手段です。会議や授業など、複数のメンバーが情報を共有する場で、発話者個々の発言を音声認識し、即時にテキストに変換してメンバーのPC画面に表示します。そうすることで、聴覚障がい者を含む参加メンバー全員がリアルタイムに情報を共有できます。	

※引用・参考にした資料

日本聴覚障害学生支援ネットワークのホームページより

4 私の経験談「聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥」(中学部 福田賢先生の話)

私は、高等部まで聾学校で過ごし、聾学校卒業後は大学に進学しました。「聴覚障がい者の世界」から「健聴者の世界」に飛び込んだ最初の1、2年は、苦悩だらけの日々を送っていたことを鮮明に覚えています。友達や先生とコミュニケーションがとれないことから、誤解によるトラブルを起こし、様々な面で困ったことがありました。進学した人だけでなく、就職した友人たちからも、「コミュニケーションのことで、毎日悩みだらけです。」とよく聞きました。しかし、情報保障を受けることができたことで、正しい情報を得ることができました。私が大学で受けた情報保障は、主に筆談です。普段の会話では、友人が紙に書いて話したり、また、大学の講義では友人たちが協力してノートテイクをしてくれたりしました。そうした協力のおかげで、正しい情報を得ることで誤解も減り、コミュニケーションが円滑になりました。

あれから10年経ちましたが、「自分から行動することが大事だ。」と改めて感じています。大学に入学したときは、聞くことを恥ずかしく思いました。でも、知らないことの方が一番恥ずかしいことに少しずつ気が付きました。何事も自分から動くことで自信が付き、社会自立につながるものだと思います。

どんな人に対しても円滑にコミュニケーションがとれるように、聾学校で自分に合った様々なコミュニケーション手段を見つけ、自分から行動できる力をつけていきましょう。